

平成22年度 NPO協働事業 キャンプ実行委員会記録 第2回目

日時 平成22年 8月4日(水) 13:30~17:00
 場所 小嶺児童館 小学生ルーム・野外
 参加者 キッズワーク 大久保さん(進行) 鶴村さん(記録) ふくおかNPOセンター古賀さん
 小嶺児童館 加来館長 角園 長谷川
 中学生1名…(今水)
 小学生6名…6年生3名(神園 小森 松本) 5年生0名(佐藤慧欠席)
 4年生3名(村田 倉重 佐藤光莉)

13:30 スタッフ打ち合わせ…第1回を終えて、メンバーの変動に関して
 真っ白な状態から作り上げることに不安を持つ児童には実行の役割など、委員を2種類に分ける
 ・プログラム企画をしていく部隊
 ・食事など、実行をする部隊

時間	内容・実際の様子など	大久保さんから
13:45	地域の面白いところを出し合う ※別添参照 初めは意見を出すのに躊躇が見られたが、大久保さんの話を受け、自分なりの面白さの紹介が活発になる。意見を受け入れてもらえる安心感を得られた様子。また、人の意見にも興味を持ったり、一緒に面白がる。	面白さを感じる視点はそれぞれ (例)工場萌え等の話
14:25	本日見に行く箇所を絞り、回る順序を決める 散策 猫の巣⇒角さんの家が角⇒うらの谷池(牛ガエル、セミがうるさい)⇒うるさい犬⇒新幹線が見える丘⇒バナナの木を発見⇒パトカーが突っ込んだ場所⇒何かの石がある林⇒レインボーパーマ	面白さを共感 物事の決定の場面(順路など) 自分たちで決める 主張の際のポイントは面白さ 決めた事には従う
	※実際に歩きながら、他の人の感じた面白さを共感する。 ※物事の決定の場面では、意見の衝突もある。 その都度自分たちで決定する体験をする。	安易な多数決ではなく、 議論(主張、説得、納得)を。
15:50	上津役グラウンドにて <u>宿題…今日行った場所を、どのように他の参加者(約30名)たちが楽しめるプログラムにするか。</u>	プログラム例,方法等、一部紹介
16:30	児童館着 解散	

16:40 **今後について打ち合わせ** (大久保さん、鶴村さん、加来館長、角園、長谷川)
 プログラム内容例
 場所の写真を使って、ウォークラリー、クイズなど…明日(8/5)の委員会にてある程度決定できる予想
 →小規模(例えば館内にて)で、実行してみる必要もある

- プログラム部隊(6名程度)…ゲーム内容と仕組み
- 当日の実行部隊(委員会に継続して集まれなかった児童など6名程度)
 夜と翌朝のメニューの決定・30人分の材料(買い出し等)

8月中にはほぼ出来上がり、9月にも数回委員会を。練習も必要。

17:00 **終了**

所見…児童なりの面白がり方や視点があり、それらを紹介する姿がいきいきとしている。大久保さんからお話のあった、児童の視点で面白い場所を書きこんだマップ作りを数年かけて手がける事等も、とても興味深いものだと感じた。
 今回のキャンプ企画実行を進めるにあたっては、委員メンバー間で、まだ議論と決定力が不十分だが、少しずつ、そして着実にそれらの体験を積み重ねている。同じ体験の中でも、気づき、姿勢は児童によって違っているが、それぞれに委員の一員として、互いに認め合いながら課題に取り組み、自信を持てる場にしていきたい。